

市展

第18回亀山市美術展目録

会 期 令和5年3月13日(月)~3月19日(日)
午前10時~午後5時(最終日は午後3時まで)

会 場 亀山市文化会館大ホールロビー
亀山市中央コミュニティセンター

主 催 亀山市
後 援 亀山市芸術文化協会、公益財団法人岡田文化財団
協 力 公益財団法人亀山市地域社会振興会

目 次

○入賞作品紹介・審査評

絵 画…………… 1

写 真…………… 3

書 …………… 5

彫刻・工芸…………… 7

○特別出展…………… 9

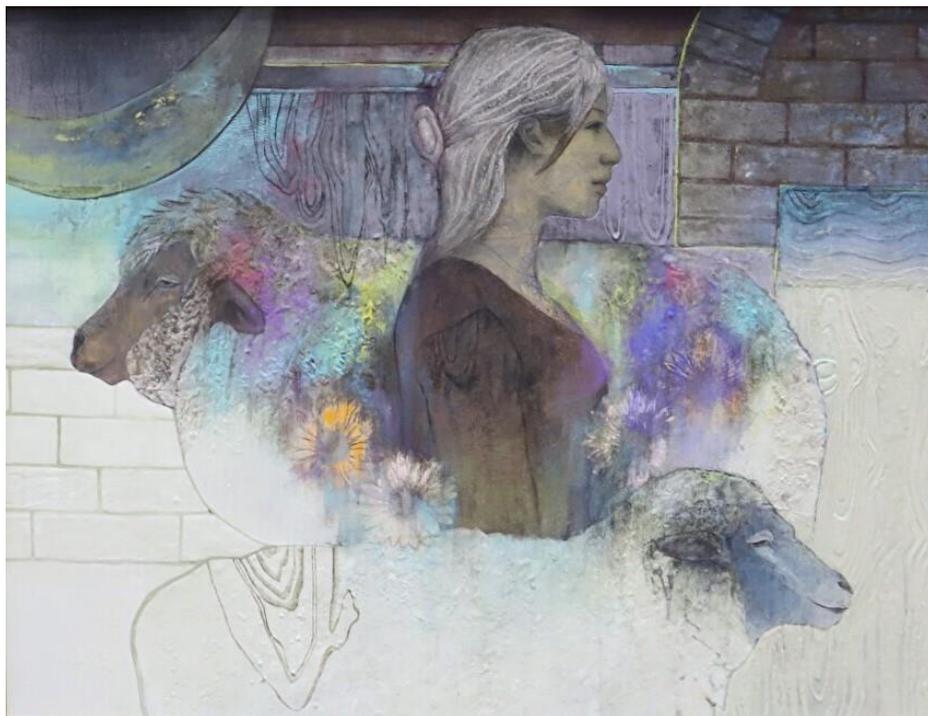
○いが・こうか・かめやま 美術展作品交流……………10

○出展作品一覧……………11

○第 18 回亀山市美術展について ……………15

○入賞作品紹介・審査評

絵画



市長賞

「夢路」木田 康仁



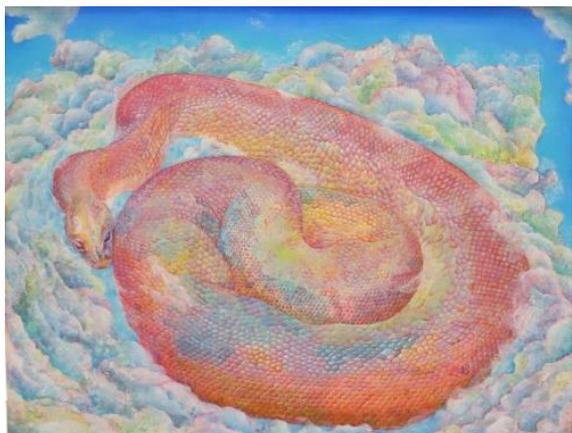
議長賞

「きざし」近澤 さとみ



教育長賞

「月下美人」松田 純一



芸術文化協会会長賞
「色を纏う」西川 真紀



岡田文化財団賞
「金風を泳ぐ」伊藤 裕子

審査評

日本画部門と洋画部門を併せての審査は時間がかかるかと思われましたが、いざ始まってみるとスムーズであって、改めてアートに境界はないと感じさせられました。その一方で日本画の持つ花鳥風月を重んじる伝統のようなものが一層薄まってゆくような危惧を覚えます。作品の色彩は豊かさを増しているように思い、コロナ後の明るさを感じました。制作した方の思いが伝わる作品が出品されており、自分のテーマをもって制作している様子が見て取れました。自分の持ち味を生かすために工夫して、どんな色調が生きるのかを見つけてください。

市長賞の「夢路」は、品格ある佇まいの人物と動物、隙のない構成で緊張感の高いものであり、彩色も美しく説得力に富んでいる作品です。

議長賞の「きざし」は、こどもが見せる一瞬の表情を確かなデッサン力で表現された作品です。

教育長賞の「月下美人」は、夜に咲いた月下美人を赤を上手く使って生き生きと表現した作品です。

芸術文化協会会長賞の「色を纏う」は、題名が示すように美しい色調に魅力を感じる作品です。

岡田文化財団賞の「金風を泳ぐ」は、魅力的な構図で色調も良く優れた作品です。

絵画部門審査員 伊藤 龍彦 川村 隆夫 山崎 和夫

写真



市長賞
「暴れ髪」阿部 充博



議長賞
「若者たちは今」滝本 麻須美



教育長賞
「風に煽られて」早川 新一



芸術文化協会会長賞
「争奪」 山川 充子



岡田文化財団賞
「境界の行き帰り」 小野 俊男

審査評

応募点数は昨年より多少減少しましたが、全体的な作品レベルは高くバラエティに富んでいました。入賞作品6点のうち人物を扱っている写真が4点あったことも今回の特徴でした。絶妙なシャッターチャンスでとらえられた技術力の高い作品や現代的な姿を表現している作品、発見することの面白さを感じさせてくれる作品など、バリエーションが豊かな作品に出会うことができました。

市長賞の「暴れ髪」は、強風を浴び、4人の髪が激しくなびいている瞬間を上手く捉えてシャッターチャンスと構図も素晴らしい作品です。

議長賞の「若者たちは今」は、現代の時代をしっかりと映し出しています。若者と背景の関係性も非常に良かったです。

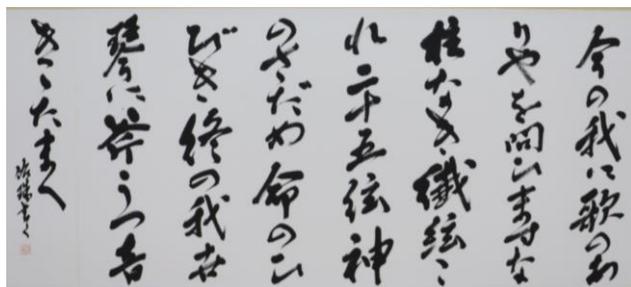
教育長賞の「風に煽られて」は、浜辺でビーチパラソルが強風で吹き飛んだ瞬間のシャッターチャンスを上手く捉えている作品です。

芸術文化協会会長賞の「争奪」は、動きの激しい被写体ですが、見事にその動きを捉えています。

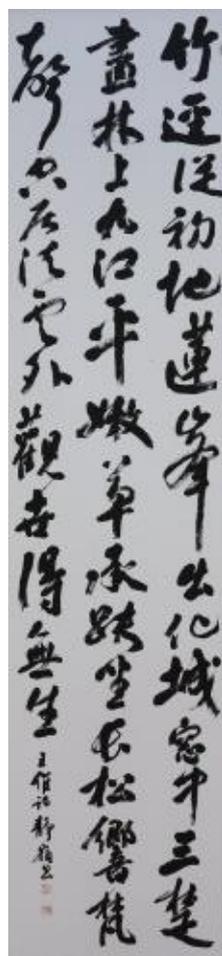
岡田文化財団賞の「境界の行き帰り」は日常的なシーンを印象的な写真作品に仕上げられています。斬新な展示方法がより現代感を強めています。

写真部門審査員 松原 豊 石井 清 中西 一夫

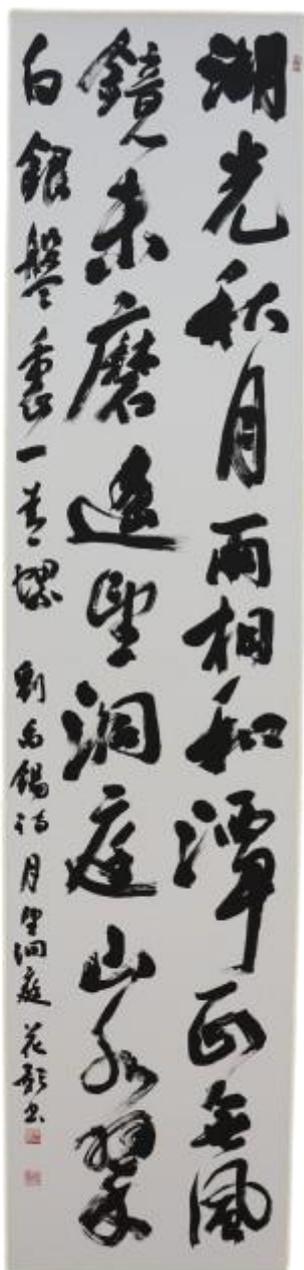
議長賞 「与謝野晶子の歌」 安藤 佑珠



教育長賞 「王維詩」 岡田 静嶺

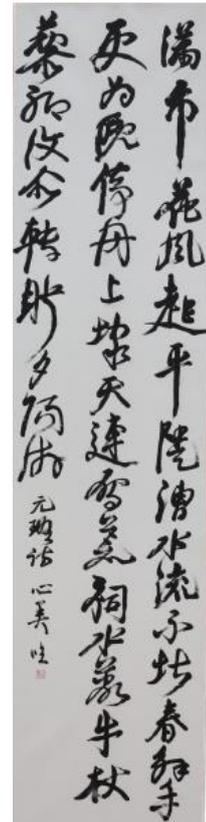


市長賞 「劉禹錫詩」 畑中 花影





芸術文化協会会長賞 「山家集」 桜井 育子



岡田文化財団賞 「臨 倪元璐詩」 秋山 心美

審査評

昨年度に比べ微増の出品がありました。よく鍛錬された作品ばかりで書部門にとっては良い傾向です。日本の書は貴重な文化芸術です。この芸術が更に世界に発信されることを願っています。

市長賞の「劉禹錫詩」は、文字の構成、全体感が良く、何より充実した線質が鑑賞者を魅了する作品です。

議長賞の「与謝野晶子の歌」は、歌意と漢字、仮名の調和が素晴らしく作品全体が仕上がった秀作です。

教育長賞の「王維詩」は、余白の生かし方が良く、全体のまとまりが良い作品です。

芸術文化協会会長賞の「山家集」は、古筆に基づいた流麗な仮名の世界が表現された魅力溢れる作品です。

岡田文化財団賞の「臨 倪元璐詩」は、倪元璐の詩を忠実に臨書され造形、線質共に表情豊かな優れた作品です。

書部門審査員 樋口 鈴峰 伊藤 南邨 納所 佳泉

彫刻・工芸



市長賞
「銅板つぼ」岡本 利見



議長賞
「直感」久保 宏心



教育長賞
「つるし手まり」水谷 敏子



芸術文化協会会長賞
「伊賀茶碗」井上 一男



岡田文化財団賞
「伊賀水指し」古川 宏

審査評

作品の点数が少なく少し寂しい感じですが、全体的に好感の持てる作品が多くまとまっていたと思います。新型コロナウイルス感染症も収束し、また作品点数も増えてくることに期待します。

市長賞の「銅板つぼ」は、端正なフォルムと繊細な口づくり、そして宇宙を感じさせる古色された色彩が魅力的な秀作です。素材が銅板のため、もう少し直線基調の形を意識されると、より緊張感のある作品になると思います。

議長賞の「直感」は、全体的にまとまっており見つめる力が溢れた作品です。

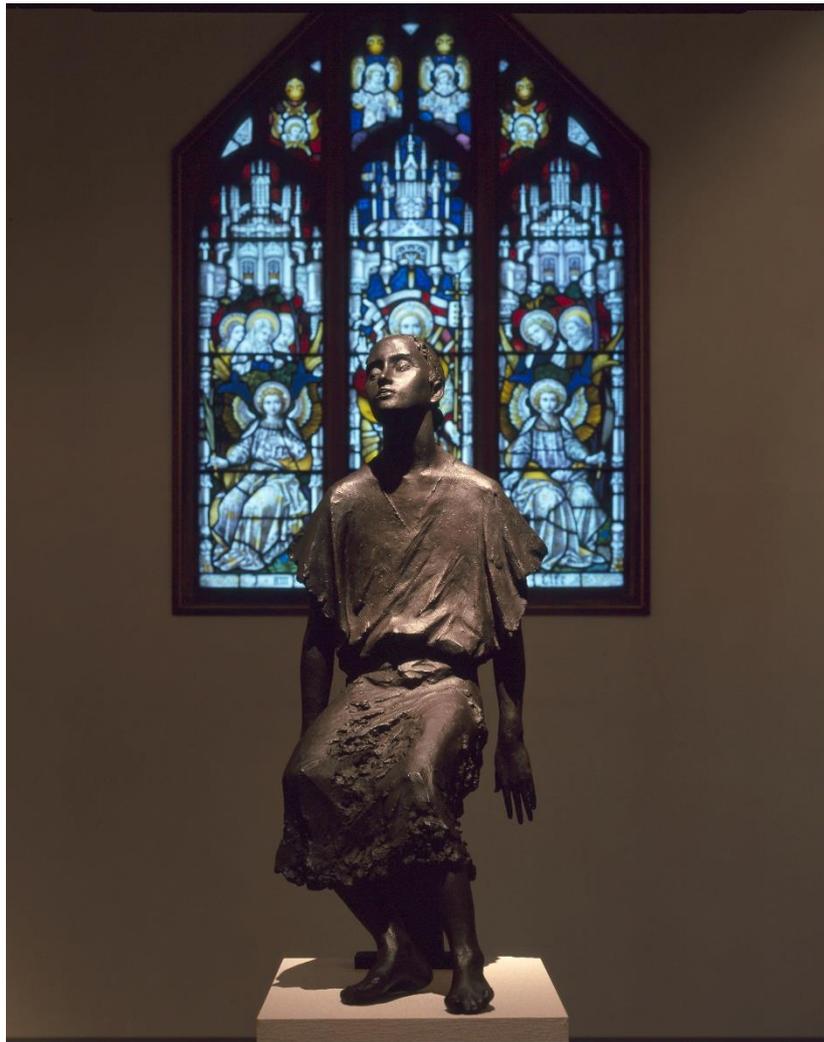
教育長賞の「つるし手まり」は、形のおもしろさに加えて色のバランスが良い作品です。

芸術文化協会会長賞の「伊賀茶碗」は、伊賀焼の「窯変現象」と茶陶の「用と美」を兼ねた焼き上がりです。

岡田文化財団賞の「伊賀水指し」は、「陶は人なり」で、「古伊賀写」として品格のある作品です。

彫刻・工芸部門審査員 高山 大 恒岡 光興 上原 正廣

○特別出展



「ミゼレーレⅡ」

中村 晋也（亀山市名誉市民）

制作 平成7（1995）年 特別協力 公益財団法人中村晋也美術館

ミゼレーレ・シリーズの作品は、中村にとって阪神淡路大震災の惨状が、敗戦後日本の惨憺たる状態や、その当時の苦しい体験と重なり生まれた造形でした。戦後生き延びた人々が、日本の復興を見事に成し遂げ、僅か10年後には「もはや戦後ではない」と言わしめたように、ミゼレーレの造形には、復興への「希望」の思いも込められています。

「ミゼレーレⅡ」は、両手をだらりと下げて打ちひしがれた人々に心を寄せながらも、陽光を浴びてエネルギーを充電しているかのようにしっかりと顔を上げています。

（提供 公益財団法人中村晋也美術館）

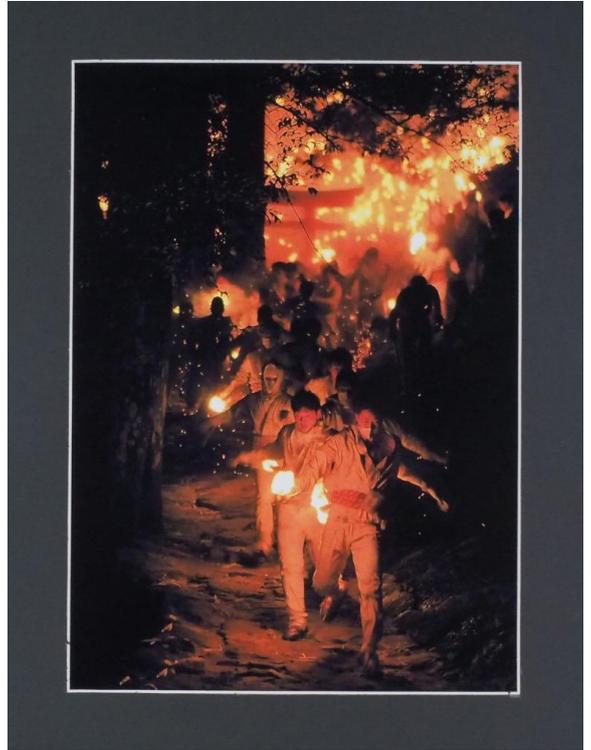
〇いが・こうか・かめやま 美術展交流作品

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今回は甲賀市からの交流作品の出展はありません。

(伊賀市)



絵画部門 市展「いが」賞
七変化柏葉 加戸 典子



写真部門 市展「いが」賞
手火松 福岡 資弥



彫塑工芸部門 市展「いが」賞
Noah's Ark 寺元 篤

○出展作品一覧

【絵画部門】

(敬称略)

入賞・選名	作者名	題名	住所
市長賞	木田 康仁	夢路	みずほ台
議長賞	近澤 さとみ	きざし	関町萩原
教育長賞	松田 純一	月下美人	野村三丁目
芸術文化協会会長賞	西川 真紀	色を纏う	亀田町
岡田文化財団賞	伊藤 裕子	金風を泳ぐ	関町木崎
奨励賞	林 正夫	踊れ 踊れ	アイリス町
奨励賞	石谷 長生	終焉	東御幸町
入選	小坂 誠二	桜花爛漫	布気町
入選	原 君子	夜はメルヘン	田村町
入選	名越 悦子	いにしえ散歩	栄町
入選	谷田 結衣	骨格	加太市場
入選	片岡 弘子	そよ風にふかれて	関町泉ヶ丘
入選	豊田 志乃	白鳳の新緑	阿野田町
入選	坂 裕文	暗雲	東台町
入選	長廻 武志	実るほど	伊勢市
入選	長谷川 國生	楠の立つ鈴鹿平野	関町富士ハイツ
入選	中西 勝	橋杭岩	野村一丁目
入選	松尾 徳昌	悲しみよさらば	下庄町
入選	所 啓子	摩崖不動明王	上野町
入選	斎藤 政子	エイサー	鈴鹿市
入選	村田 円莉子	ゆらぎ	両尾町
入選	小池 勇	夢	本町三丁目
入選	藤縄 正博	夜の波切漁港	野村一丁目
入選	生駒 清子	密をさけ蜜を求めて	羽若町
入選	太田 幸子	忍耐木	和田町
入選	石河 溪峰	豪雪兼六園	北町
入選	原 さだ代	パバイヤ	田村町
入選	水谷 和則	故郷	関町小野
入選	松村 弘志	櫻の木	栄町
入選	田中 香	待春	辺法寺町
無鑑査	日當 優子	幼い剣士	みずほ台
無鑑査	田口 眞佐子	冴ゆる	上野町
審査員	伊藤 龍彦	森の信号灯	菰野町
審査員	川村 隆夫	ローデンプルグ	四日市市
審査員	山崎 和夫	庭	鈴鹿市

運営委員	宮崎 観峰	多門櫓の四季	両尾町
運営委員	中田 勝彦	鶏舎	南野町

【写真部門】

(敬称略)

入賞・選名	作者名	題名	住所
市長賞	阿部 充博	暴れ髪	みずほ台
議長賞	滝本 麻須美	若者たちは今	関町坂下
教育長賞	早川 新一	風に煽られて	みずほ台
芸術文化協会会長賞	山川 充子	争奪	鈴鹿市
岡田文化財団賞	小野 俊男	境界の行き帰り	本町三丁目
奨励賞	谷口 初太郎	猿人岩	住山町
入選	佐野 昌之	日常	小川町
入選	井上 英勝	激走	太岡寺町
入選	池山 康夫	漁村の片隅	津市
入選	笠井 俊夫	学校帰りのJ・K	関町坂下
入選	豊田 康文	氷河期より	菅内町
入選	伊藤 隆彦	オホホ	鈴鹿市
入選	呉山 道夫	変幻	和田町
入選	滝本 洋一	けんけんぱ	関町坂下
入選	櫻井 信也	錦秋	天神一丁目
入選	西村 幸子	急ぎ足	井田川町
入選	尾崎 里美	休養	辺法寺町
入選	宮崎 良治	“アレエ”宇宙人寝てる	両尾町
入選	服部 清和	アルプス展望	能褒野町
入選	宮崎 理徳	密	津市
入選	伊藤 隆	思いを込めて	菅内町
無鑑査	井上 アヤ子	仲よし兄妹	みどり町
審査員	松原 豊	同級生とその娘	津市
審査員	石井 清	雨上がり	伊勢市
審査員	中西 一夫	躍動	鈴鹿市
運営委員	平野 武	ブルードリーム	椿世町

【書部門】

(敬称略)

入賞・選名	作者名	題名	住所
市長賞	畑中 花影	劉禹錫詩	鈴鹿市
議長賞	安藤 佑珠	与謝野晶子の歌	椿世町
教育長賞	岡田 静嶺	王維詩	津市
芸術文化協会会長賞	桜井 育子	山家集	本町二丁目
岡田文化財団賞	秋山 心美	臨 倪元璐詩	本町一丁目
奨励賞	山本 青蘭	島崎藤村の詩	みどり町
入選	平田 英也	雲從龍 風從虎	野村一丁目
入選	加藤 紅華	寒山 詩	住山町
入選	篠原 蕙風	杜甫 詩	下庄町
入選	櫻井 花筵	空海 詩	井尻町
入選	伊藤 鍔子	芭蕉の句	江ヶ室
入選	森本 春香	杜甫詩 促織	津市
入選	川上 春琴	張旭 詩	菅内町
入選	近澤 真有	臨 曹全碑	本町一丁目
入選	前田 茜	春(川端茅舎の句)	本町一丁目
入選	西村 真奈	臨 孔子廟堂碑	本町一丁目
入選	菅生 洋子	さく よしひろの詞	アイリス町
入選	高橋 慶水	日高てるの詩	みどり町
入選	江藤 千穂	劉禹錫詩	川崎町
入選	蔦 皓月	張仲素詩	鈴鹿市
入選	竹井 寶山	梁苑 王昌齡詩	みずほ台
入選	清水 遊舟	庾信詩	京都市
入選	阿久津 清孤	劉長卿詩	辺法寺町
入選	阿久津 研道	崔國輔詩	辺法寺町
入選	好田 小沙	蘇東坡詩	津市
無鑑査	竹田 清章	廣瀬旭莊詩	栄町
無鑑査	豊田 真苑	望	管内町
無鑑査	堀田 花	句宮のうた	東丸町
審査員	樋口 鈴峰	少見多怪	鈴鹿市
審査員	伊藤 南邨	陸游句	桑名市
審査員	納所 佳泉	翰墨游戲	度会郡玉城町
運営委員	安藤 清舟	書譜語	みどり町

【彫刻・工芸部門】

(敬称略)

入賞・選名	作者名	題名	住所
市長賞	岡本 利見	銅板つぼ	和田町
議長賞	久保 宏心	直感	川合町
教育長賞	水谷 敏子	つるし手まり	関町小野
芸術文化協会会長賞	井上 一男	伊賀茶碗	阿野田町
岡田文化財団賞	古川 宏	伊賀水指し	名古屋市
奨励賞	坂本 祥子	緩歩	みずほ台
入選	竹森 實紀雄	半胴壺(焼締メ)	名張市
入選	西川 るみ子	四季の宝物	川合町
入選	田所 正敏	抹茶碗 3態	関ヶ丘
入選	堀川 峰男	花入れ	鈴鹿市
審査員	高山 大	黒陶金彩函	津市
審査員	恒岡 光興	伊賀萩広口壺	伊賀市
審査員	上原 正廣	氷をとかささないで	鈴鹿市
運営委員	後藤 正博	太陽と月	東御幸町

伊賀市

賞名	作者名	題名	住所
絵画部門 市展「いが」賞	加戸 典子	七変化柏葉	伊賀市
写真部門 市展「いが」賞	福岡 資弥	手火松	伊賀市
彫塑工芸部門 市展「いが」賞	寺元 篤	Noah's Ark	伊賀市

○第 18 回亀山市美術展について

《第 18 回亀山市美術展出展状況》

部 門	出品数	入選	無鑑査	審査員	特別出展	美術展交流作品	運営委員	展示作品
絵 画	30	30	2	3	0	1	2	38
写 真	21	21	1	3	0	1	1	27
書	25	25	3	3	0	0	1	32
彫刻・工芸	10	10	0	3	1	1	1	16
合 計	86	86	6	12	1	3	5	113

- ※ 第 2 回亀山市美術展以降、同部門で市長賞を 2 回受賞された方は 5 年間無鑑査となります。
- ※ 彫刻・工芸部門には、第 9 回亀山市美術展より陶芸を含みます。
- ※ 入選者数に、入賞者数（奨励賞を含む 6 賞）を含みます。
- ※ 前回までの日本画部門と洋画部門を統合し今回より絵画部門として一本化したことから、運営委員と協議のうえ、今回に限り、絵画部門の奨励賞を 2 作品選出しています。

《審査員及び運営委員》

審 査 員	運 営 委 員
【 絵 画 部 門 】 伊藤龍彦・川村隆夫・山崎和夫	【 絵 画 部 門 】 宮崎観峰
【 写 真 部 門 】 松原 豊・石井 清・中西一夫	【 絵 画 部 門 】 中田勝彦
【 書 部 門 】 樋口鈴峰・伊藤南邨・納所佳泉	【 写 真 部 門 】 平野 武
【 彫 刻 ・ 工 芸 部 門 】 高山 大・恒岡光興・上原正廣	【 書 部 門 】 安藤清舟
	【 彫 刻 ・ 工 芸 部 門 】 後藤正博

※目録氏名は敬称を略しました。

